

特集 地域発

香川県薬がACPイベントにブース出展

今後は研修会企画も

2025/11/26 17:33



香川県薬の展示ブース



香川県薬剤師会はこのほど、厚生労働省が高松市で開催した人生会議（ACP）普及啓発イベントにブースを出展し、「ACPと薬剤師の関わり」をまとめたチラシを残薬整理バッグとともに配布した。山本和幸会長は「薬剤師こそACPの推進に寄与できる」と考え、出展を決めたと説明。地域住民の関心の高さを実感したとして、今後は香川県薬としても研修会の企画を検討するなど、ACPに関する取り組みを推進していく考えを示した。

厚労省は毎年11月30日を「人生会議の日」と定め、普及啓発イベントを展開。今年は24日に初の試みとして地方で開催した。その舞台には2015年から人生会議の普及に取り組む高松市を選び、著名人によるトークセッションなどが行われた。

香川県薬はイベント当日、会場入り口にブースを出展。お薬カレンダーや服薬支援補助器具、在宅で使用するインフュージョンポンプなどを展示した。また、ACPと薬剤師に関するチラシ、香川県薬のホームページの活用ガイド、薬の飲み方に関する冊子などの資料を入れた「節薬バッグ」を約200人に配布した。

香川県薬は、厚労省関連検討会の委員を務める日本薬剤師会の村杉紀明常務理事からの提案で出展の検討を開始。山本氏は、薬剤師の在宅訪問業務の重要性が高まる中、「ACPへの関わりは不可欠」との認識をもともと持っていたと述べ、薬剤師としてACPへの理解と関わりを深めていくきっかけとして出展を決断したと説明した。

当日は多数の人がブースに立ち寄ったといい「在宅での薬剤師の役割やACPへの関わりに対する関心の高さを実感した」という。「香川県薬としてACPに対する理解を深め、薬剤師が果たすべき役割を明確にしていく必要性を強く認識した」とも述べ、薬剤師が適切にACPに関与できる体制づくりを進めていくという。